

資料2. インタビュー調査結果:コーディング表(一部抜粋)

カテゴリ	サブカテゴリー	コード	データ
A 肯定的感情の生成	《参加者の肯定的感情の生成》	〈参加者の安心感〉	・これでいいのか不安があったかこれを確認することでこの点は大丈夫と思え、安心できる。(No1-2)・最初にできていることを確認する点がいいと思った。虐待ケースだとどうしてもきかぬことが先になりがち。でもストレッチングが確認できると安心。(No1-3)・マイナスの点じゃなくて、現在安心してできていることなんかもかなり掘り下げるので、むずかしい点だけではなく、いい点も出てくるので、関わる側にとってみても安心できる。(No1-6)
		〈参加者の対処可能感〉	・先が見えないケースと思っていた。でも、。(本人のできることに、好きなこと)が確認できて、なんとなくやっていけばなんとかなるんじゃないかという気持ちになった。(No3-3)
		〈当事者に対する否定的な見方や気持ちの変化〉	・いいところを見ていくのは、心配なこと、悪いところ目を向けてきたので新しい感じがした。こういうのだとお客様への気持ちが違ってくる。(No5-3)
		〈担当者への信頼感〉	・力のあるCMだとはわかってはいたが、それでも夫婦双方への対応をやるのは困難だと思っていた。けれど、いろいろなアプローチをやっていてくれるのだとわかって安心した。こちらとしても安心してかかわれるということが確認できた。(No1-4)
	《担当者の肯定的感情の生成》	〈担当者の自信〉	・事例提供者自身も気づいてはいたかもしれないが、よかったと評価してよいことなのか、不安だったところを、周囲からよかった、よくやっていると言われて、自分でもプラスに振り返ることができ、自信につながったと思う。(No16-3)・(事例提供者に)実際に取り組んだり、やってみてみることを出してもらったことで、参加者から感嘆の声が聞かれた。(No8-1)・いいところ探しが大変だとわかった。本人や家族についても、支援についても、こんなところができている、そういう視点。大変充実したカンファレンスだった。(No22-2)
		〈担当者の安心感〉	・ケース提出者の表情が当初緊張で硬かったが、終盤には明るい表情になっていた。前向きな意見や方法の提案が得られたこと、責められない環境であったことが影響したのではないと思う。(No12-1) ・ケアマネにとってよかったのではないが、よく評価してもらえたと、明るい雰囲気になって帰ってもらえた。(No21-1)
	《安全到達度評価による安心感の共有》	〈安全度の共有による安心感の共有〉	・こういう事例ってその場で決めてからも本当に安全なのかとか、大丈夫かというのが拭ききれなかったと思う。ただ、みんながこの辺なら安心、安全なんだねってところが共有できると、ちょっと安心できるなというのがある。いままでやってきたことが間違いじゃなくてよかったことも確認できたし、先が見通せないとかよくモヤモヤするが、このとおりやっていけばいいんだということが確認できれば、それはそれで仕事に對しての安心感も出てくる。なにか歯車が狂うようなことがあったら、また再調整できると思える。(No1-1)・みんなで見えやすいもの共有ができたっていうのは、一番良かったのかなと思う。(No1-7)・点数づけをやったら、不安なCMが5点、サービス事業所も5点、看護師は7点、包括としてはその中間くらい。医療職が具体的に、こうなんですと、身体面の数値も教えてくれるので、それならば安心、というふうになんか思えた。包括としても、サービス事業所の動きやこの事例をどういうふうに見てきたかということを通じて理解できたので安心した。(No19-1)・安全ラインは、それぞれの感じ方が違っても似たような点数になり、引き離さず、見守りしていけるということが目で、数字で確認できたのはよかった。(No3-4)
		〈自由に語れるという安心感の共有〉	・安全ラインは、それぞれの感じ方が違っても似たような点数になり、引き離さず、見守りしていけるということが目で、数字で確認できたのはよかった。(No3-4)・自分の視点、価値観が大事にされている、そういう雰囲気があって、自由なので、自由な感じで出せる。自分と違う人の意見もそうかと受け止められるし、参加者同士が安心して考えられる。(No25-3)
B 参加者全員の発言と相互理解	〈参加者全員の発言を促進〉	〈全員が活発に発言〉	・こういうシートを使うということで具体的にどういうことを知りたいのかという情報の集め方がわかりやすかった。「これに関して意見を言ってください」というふうに言われると、とても整理ができて、こちらとしては話しやすかった。(No1-9) ・次はこれについての質問だとわかるから、この質問には、ということ準備しやすかった。時間は限られているので、そのほうが考えて話しやすい。参加者も、時間のことを考えて話すことができる。(No22-4)
		〈発言しやすさ〉	・こういうシートを使うということで具体的にどういうことを知りたいのかという情報の集め方がわかりやすかった。「これに関して意見を言ってください」というふうに言われると、とても整理ができて、こちらとしては話しやすかった。(No1-9) ・次はこれについての質問だとわかるから、この質問には、ということ準備しやすかった。時間は限られているので、そのほうが考えて話しやすい。参加者も、時間のことを考えて話すことができる。(No22-4)
	《相互理解》	〈役割や考えについての相互理解〉	・それぞれの役割もおおよそ知ってはいたが、話がなされる前から、その役割がさらにわかってよかった。(No1-4)・やってみて、情報共有ができたっていうのはもちろんあって、あと、それぞれが何をやってる、どう考えているかが分りやすかったっていう感想は出てきた。(No18-1) ・他の支援者がどのような形で動いているのか、その動きがよくわかった。ふだん、やっていることはおおよそわかっているが、今回は、事例とともにやったことを具体的に言っていく。人のやったこととよくわかってきたことはこちらも真似できる。(No22-6)
		〈支援過程の理解〉	・支援できているところを大事にする。ここをどういうふうに行っているということを担当者という人で、担当者以外の人たちにも、それがわかってくれたらと思う。それは(同じようなことを言っている)カンファレンスをやることで、伝わった、理解してもらえたという感じ。(No25-4)・やってみてよかった支援というのを話すことで、お互い、いい支援をしてきたということがわかる。その都度、フィードバックもして。それでこういうことは起きているので、頑張っていてほしい。そっちがちゃんとやっていると、というふうな責めるふうにはならなかった。(No23-2)・周囲もヘルパーさんのことをわかって、ヘルパーさんも自分だけがやっているのではなく、ほかのところもかかわってくれているんだという気持ちになったと思う。(No22-7)
《違いの理解と共有》	〈違いの理解と共有〉	・自分たちとは違う評価が見えてきたのかという点は良かったと思う。どうしてもケアマネはケアマネ主体で物事を見がちなんもある。今回は大勢の専門職が集まったが、それぞれ異なる家族に関わっていて、それぞれの目線で評価してもらったので、違いが見えやすかった。(No1-7)・安全ラインでクリニックの看護師さんが3点で、8、9点が包括と行政の看護師さん。(それまでも違うことはわかってはいたが)こんなに違うんだっていうのが目からうろこで来た。(No2-1)・安全ラインが参加者によって異なることで、多様な視点が共有できた。(No4-5)・安全ラインの設定が各立場によって違うが、違ってよいことで、それぞれの機能的役割が理解し合える。(No4-4)・違うというのが分かった上で、そこを一致させるとかはせずに。(中略)・看護師さんの専門性としては脱水とか衛生環境とかを心配しますよね、というふうなことを言っても、ものすごく穏やかになって、明らかに雰囲気変わったのがわかった。(No2-1)・みんな立場が違うので、意見がそろわないが、みんなの意見がわかりやすかったし、理解もできた。自分たちの意見も言いやすかった。違いが若干はでてるけれど、それはそれで受け入れられた。(No6-2) ・立場やかかわり度のちがいで、ラインは、危険度は違う。ヘルパーさんは、現場で確認しているから危険度が9とか高くなるが、見ていない人からすると、総合的に見て6.7点じゃないかと、みんなでもやるから、総合的に見ることはできる。安全ラインについては、立場によってはらけた方がいいなあと思った。人によってとらえ方が違うことがわかる。自分と同じ考えだろうと思っていたり、こう考えているだろうと思っていたら、それは悪い込みであったり。その点、人の認識がわかってよかった。(No1-3)・安全像のところが考え方。どういう視点でできているかという点が客観的に認識できる。他の人とのずれがはっきりし、ずれがなんでもかかわって、自分の考えを深めることができる。(No25-2)・自分は3、ほかの人は5、だったが、それぞれ感じたことが分かった。考え方がわかった。なんで自分が低くしたのかについても、直接体を見る者としては、低くなるし、今後ないようにするために、自分、自分の感じ方が他の人に理解してもらえたと思うし、自分も他の日の考え方を理解することができた。(No26-3)・安全像もそうだけれど、1つの答えでなくて、みんな意見がちがうんだ、ということを受け入れられた。(No27-1) ・現時点の安全ラインをそれぞれが話し合ったとき、点数はバラバラだったけれども、それぞれの話を聞いて、そういうずれはそうだな、ということもわかった。相手の言うことを理解して共有できた。違うことで対立するのではなく、同意の上で、じゃあ、それが必要だからやってみようということに。(No23-2)・安全到達度を数字で出すところ。みなさん、それぞれ違って、この人はこういうふうな考えを持っているのか、そういうことがわかった。それぞれの違いが分かった。担当者は他の人の考え方がわかって安心していたし、他の人もそうだった。なんとなく違う、スしている、と思っていたのが、こういうことで違う、ということがわかり、相互理解が進んだ。(No25-4)	